

固定運動遊具による

幼児の遊びの発達についての実験的研究 (6)

——安全に関する理解度について——

岡 本 卓 夫
石 川 豊 子

四、ジャンゲルジム遊び

ジャンゲルジム遊びにおける子どもの安全に関する理解の程度は、第四表に示す如く、ことば使いでは、理解してない方が、行動では、理解している方が多く、全体的に、わずかではあるが、理解している方が多くなっている。しかし、その頻度も他の遊具におけるより少なく、危険な場合も、先ず少ないように思われる。

しかし、理解していることばは、六才児に多く、「さわったら危ない」という、すなわち、他の子どもからの危険におびえたことばが多く発せられており、理解している行動は、四才児に多く、ほとんどが低いところで遊んでいる。

ところが、理解してない言・動は、五、六才の男児に多く、「のけ！」とか「押しのける」など、他の子どもへの危険ということばは全く考えず、自己中心的、危険な言・動が多い。

かく考えてみると、この遊具での彼らの安全に関する問題は、四才児および女児の場合は、先ず心配ないと思われるが、五、六才の男児では、活動の活発性にもなって、時々荒々しい言・動が出現するので、一応注意する必要があるように思う。だがしかし、はじめのものべた如く、言・動の頻度も少ない上に、この遊具自体のもつ特殊性（つかまるところが多い）もあって、他の遊具における程の心配はいらないように思う。

したがって、この遊具では、五、六才男児に、ジムの上で押したり、ついたりさせないように注意しておく程度で、先ず安全な指導ができるのではないかと思われる。

五、シーソー遊び

シーソー遊びにおける子どもの安全に関する理解の程度は、第五

第4表 ジャングルジム遊び

分類	項目	4才		5才		6才		計	
		男	女	男	女	男	女		
理解している	ことば使い	手につかまれ		1				1	
		そんなことしたら落ちる					1	1	
		さわったら危い					1	2	3
	計	0	1	0	0	1	3	5	
	行動	低いところで遊ぶ	5	4					9
		手をつかんで引いてやる		1		2			3
計		5	5	0	2	0	0	12	
理解していない	ことば使い	押してやれ			3			3	
		足をひっぱれ			1				1
		のけ! 危ないぞ			3		2		5
		計	0	0	7	0	2	0	9
	行動	下側にいる子どもの頭をふむ			1				1
		押しのける	1		1		2		4
		足を引く			1				1
		計	1	0	3	0	2	0	6

表に示す如く、ことば使いでは、理解している方が、行動では、理解していない方が多い。だが、全体的には、理解していない言・動の方が多く発生している。

しかし、理解している言・動は、各年令を通して女兒に多く、「そこちよつとのいて」とか「いい?」とか、あるいは「相手が乗ったのを確かめて動かす」など、他の子どもへの安全を考えた時に発生している場合が多く、それらは、年令とともに増加しておる。

ところが、理解していない言・動は、各年令を通して男児に多く「のけ!」とか「急に下ろす」など、他の子どもへの危険ということ、殆んど考えず、自分本意の自己中心的、スリリングな言・動が多い。しかし、これらは、年令と共に増加しておる。

かく考えてみると、この遊具における安全に関する問題は、女兒および四才児では比較的心配もいらなと思うが、五、六才の男児では、危険な言・動がしばしば発生しているので、十分注意せねばならないと思う。

したがって、これが遊具での安全な指導をするには、先ず、五、六才の男児に、使い方(無茶をしないこと。特に女兒の場合に)を徹底させておくことである。次には、できるだけ、同性ペアで遊ばせるようにするとか、年令別に遊具を決めておいてやることなどが考えられるであろう。

六、太鼓橋

太鼓橋遊びにおける子どもの安全に関する理解の程度は、第六表に示す如く、全体的には、理解している言・動より、理解していない言・動の方が多く発生している。しかし、理解している言・動は、各年令共女兒に多く、「そここのいて」とか「手元、足元をたしかめながら登る」など、自分自身の安全保持を考えた場合に多く発生しており、それらは、年令と共に増加しておる。

ところが、理解していない言・動は、各年令共男児に多く、「背負って行ってくれ」とか「とびおる」など、他の子どもへの危険と

第5表 シーズー遊び

分類	項目	4才		5才		6才		計
		男	女	男	女	男	女	
理解している	ならんで順番にのろう				2			2
	乗ったか					2		2
	はい、みんな下りますよ				1			1
	いいよ						1	1
	そこちょっとのいていて		4	1				5
	交代して					1		1
	危ない	1					1	2
	いい？				1		2	3
	上がるからちょっと待って		1					1
	こっちへ誰かのれ			1				1
	はなさんと危ない	1		1				2
	やめよう						2	2
	計	2	5	3	5	2	6	23
行動	後にずっとはなれてみる		1					1
	止めてから下りる			1				1
	乗ったのを確かめてから動かす					1	2	3
	計	0	1	1	0	1	2	5
理解していない	さら！ さら！ とからかう					2		2
	のけ！ のけ！	2		2		1		5
	つき合いせんか			1				1
	びっくりさせてやろう					1	1	2
	急にいくぞ			1			1	2
	どかーん！					1		1
	手ばなししてみ					1		1
	手ばなし、わあーい			1				1
	計	2	0	5	0	5	2	14
	行動	押し合いをする	1					
相手が下りられないように早く上下に動かす				1				1
わあーと手をはなす				1			2	3
急にさっと下ろす		1		2		4		7
片方がみんなとび下りる				1		3		4
手をはなす				1				1
つき落とし合いをする				2	1	2		5
けんかする						1		1
計	2	0	8	1	10	2	23	

いうことはほとんど考えず、とにかく、自分勝手にやるといった言・動が多く、しかもそれらが、年令と共に増加しておる。

かく考えてみると、この遊具遊びにおける安全に関する問題は、女児の場合は、比較的心配しなくていいと思うが、男児の場合は、年令の進むにしたがって、危険な遊び方をするようになるので十分注意せねばならないと思う。

したがって、これが遊具での安全な指導をするには、先ず、五、

七、回転台遊び

六才の男児に、安全な遊び方（とびおりたり、ついたりさせないなど）を具体的に指導してやることである。特に女児の場合に注意させるようにしなければならない。次には、男・女別に時間を決めて遊ばせるとか、あるいは年令別にそうさせるなども、一つの試みではないだろうか。

第6表 太鼓橋遊び

分類	項目	4才		5才		6才		計	
		男	女	男	女	男	女		
理解している	ことば使っている	そのいて		1	1			5	7
		危ないなあー		1		2		1	4
		そんなことしたらおっこちるぞ	1		1		1	1	4
		上がっていくよ			1	2			3
		手をのけ	1				1		2
		もうきてもいいよ	1	1		1			3
		計	3	3	3	5	2	7	23
	行動	手・足元をたしかめながら登る	1	2	3	5	5	5	21
		低いところを選んでめぐりおりる	1		1				2
		上側の子どもに注意しながら懸垂などして遊ぶ	2	3		1		2	8
		計	4	5	4	6	5	7	31
	理解していない	ことば使っていない	すごいでしょ		1		2		3
背負っていってくれ					1		6		7
まかして						1		1	2
背負ってやろう					1		2		3
反対にいてやれ			2	1	2				5
続いてきてみよ			1	1			1		3
ようしないだろう					2				2
計		3	3	6	3	9	1	25	
行動		橋の間から顔や足をだす	3	1	3				7
		上で手をはなしふり回す			2		3		5
		二段目からとび下りる	2	1	1		5	1	10
		他の子どもの服をひっぱりながら渡る						3	3
	上がってくる子どもに気づかず下りていく		2	1	2	3		8	
上でつき合いをする	1	1	1	1		2	6		
計	6	5	8	3	11	6	39		

回転台遊びにおける子どもの安全に関する理解の程度は、第七表に示す如く、ことば使いでは、理解している方が、行動では、理解していない方がきわめて多くなっておるが、理解、不理解の全体的頻数では、両者よく似ておる。

しかし、理解しておる言・動では、ことば使いの面にそのほとんどがあらわれてきており、いずれの年齢においても、男児に多く、年齢と共に増加している。すなわち、それらは、「強く回したら

あかん」とか「止めてくれ！ 危ない」など、自分の身に危険を感じた時に発しており、他の遊具における女児の如き場面が、活動的、活発な男児の遊び場面にひき起つている。かかることは、これだけでも、この遊具が、彼らに如何に危険な遊具であるかということがわかれる。

また、理解していない言・動は、両者ほぼ半々の頻数を示しているが、いずれの年齢においても、これまた男児に多く、特に、五才

男児においては、いちじるしく頻発しておる。すなわち、「も」と回せ」とか「とび降り、とび下り」、あるいは「回しながらの押し合い」など、自分勝手な、スリリングな言・動が多く他の子どもへの危険ということとはほとんど考えていないようである。

かかる状態だから、女児はあまりよりつけず、したがっ

て、その頻度も少ない結果がでているのだと思う。

かく考えてみると、この遊具遊びにおける安全に関する問題は、先ず、女兒の場合は、女兒特有の用心深きでもって、互に無茶をせずコントロールし合せて安全に遊ぶことができるのではないかと思うが、男児ばかり（特に五才男児の場合）、あるいは男・女一しょに遊ぶといった場合には、この遊具の特性と、男児の活動性が相まって、相当危険な場面がひき起るのではないかと思われる。

いづれにせよ、遊具自体の改善ということではまぬがれないもののように考えさせられるが、あえて、これが遊具での安全な指導をするには、先ず、子どもたちに、良い例、悪い例の具体的な実例をして見せ、遊び方を実際に指導しておいてやることである。かくして、安全に遊べるようになるまでは、できるだけ教師がそばにいて管理する機会を多く持つようにしてやることである（特に五才児の場合）。次には、男・女別に遊ばせるように時間を決めておいてやるのか、さらには、周囲に「サク」

第7表 回転台遊び

分類	項目	4才		5才		6才		計	
		男	女	男	女	男	女		
理解している	とめてくれ！ 危ない	3	2	2		8		15	
	目が回る		2	4	2	1		9	
	もっとゆっくり	1		2	1	4	1	9	
	みんな乗ったら出発	2				2	2	6	
	ストップ！ 乗るから	1				2		3	
	強く回したらあかん	1		2	3	5	8	19	
	今度反対に回せ目が回る					2		2	
	計	8	4	10	6	24	11	63	
	行動	側の子どもに気をつけて回す		1		1		1	3
		計	0	1	0	1	0	1	3
理解していない	とび下りよ	1		4		2	1	8	
	とびのってやろう			1			1	2	
	もっと回せ	2		3		3		8	
	当ても知らんぞ			2				2	
	ふらふらになっても止めるな			2				2	
	のけ！ つき落すぞ	1		1				2	
	そんなのほっといて回せ			3				3	
	目が回っても止めるな	1		4		1		6	
	計	5	0	20	0	6	2	33	
	行動	回しながら押し合いする		1	2	2		3	8
止めて！ といっても回す		1		3				4	
走ってきてとびのる		2		1			1	4	
手でぶら下がって回る		1		3		2	2	8	
とび下りる		1				4	3	8	
側の子どもに当りそうなのに平気で回す				3				3	
計	5	1	12	2	6	9	35		

をつくっておいてやるのかの細心の注意をはらうことが肝要である。

八、遊動橋

遊動橋遊びにおける子どもの安全に関する理解の程度は、第八表に示す如く、ことば使いでは、理解している方が、行動では、理解していない方が多くなっておる。だが、全体的には、理解していな

第8表 遊動橋遊び

分類	項目	4才		5才		6才		計	
		男	女	男	女	男	女		
理解している	ことば使っている	フックがはずれるぞ				1		1	
		みんな乗れ！ ゆるぞ				3	1	4	
		止まって！ 乗るから					2		2
		ストップ！ ストップ！	1		3		5		9
		ひとりずつ乗るのよ				1		2	3
		足を下ろすと危ないぞ					1		1
		まだゆったらだめだぞ					1		1
	計	1	0	3	1	11	5	21	
	行動	みんなを見てからゆる	1		2		3		6
		ゆれにあわしてゆり手にはいる	2		1	1	1	1	6
計		3	0	3	1	4	1	12	
理解していない	ことば使っていない	あたっても知らんぞ			2		1		3
		もっとゆれ			3		2		5
		計	0	0	5	0	3	0	8
	行動	乗ってる子どもに注意せず勝手にゆる	1		2		2		5
		ストップといわれてもゆる	2						2
		無茶苦茶にゆる			3		4		7
		手でゆりながらとびのる			1		2		3
		そばにいる子どもに注意せずにゆる	1		3				4
		立のり手ばなしでゆる					2		2
		ゆりながら向きをかえる					2	3	5
計	4	0	9	0	12	3	28		

い方がやや多い。
 しかして、理解している言・動は、各年令共男児に多く、「ストップ」とか「みんなを見てからゆる」など、ゆり出しか止める時に、お互いの安全ということを考えて発している場合が多いようである。
 また、理解していない言・動も男児に多く、「もっとゆれ」そして「無茶苦茶にゆる」など、一たんゆれだすと、他の子どももの危険と

いうことは考えずに、自分勝手な、スリリングな言・動が多くなっている。
 しかして、以上の如き傾向は、年令とともに増加しておる。
 この表で女兒の言・動が少ないというのは、遊びが、ほとんど活動的な男児によってリードされ、女兒は、ただ乗っているだけでよいという場合が多かったからだと思う。
 かく考えてみると、この遊具遊びにおける安全に関する問題は、四才児や女兒の場合はいよとして、やはり、五、六才男児では注意する必要がある。

しかし、この遊具は、元来、そのゆれも小さくできてゐるし、地面にも接して安全につくられてゐるので、無茶にゆらせないように仕向ける程度で、先ず安全な指導ができるのではないかと思う。

(つづく)

* * *